



意外と
知らない?

相川の文化財

ご存知のとおり、新潟県と佐渡市は、相川金銀山を中心、佐渡の鉱山に関連する遺跡や建物、町並みの世界遺産登録を目指して取り組んでいます。新聞やテレビ、雑誌の観光案内などでも、佐渡を代表する文化財のひとつとして、相川金銀山に関する遺跡や建物がよく紹介されていると思います。

ですが、約四百年の歴史をもつ鉱山町相川には、じつは他にも素晴らしい文化財がたくさんあります。数にすると、相川だけで50件以上の文化財が存在します。その種類も遺跡・建物・古文書・工芸品・樹木・伝統行事など、じつに様々です。今回は、数ある相川の文化財のなから、5つの文化財をご紹介します。

相川
あいかわらばん
版

第30号

2017年11月24日発行

《編集・発行》

佐渡市産業観光部

世界遺産推進課

電話 0259-63-5136

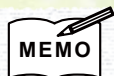
FAX 0259-63-6130



大提灯武者絵 おおちょうちんむしやえ

市指定・有形民俗文化財／指定年:平成16年／所在地:相川郷土博物館内(非公開)

かつて、相川市街地では祭の際、大きな箱型の提灯が町内ごとに通りに掲げられました。この絵は、その大提灯の絵柄のひとつで、南北朝時代の軍記物語「太平記」で語られている「村上義光芋瀬錦旗奪返」という場面です。大提灯は、縦約1.5m・横約4m・奥行50cmの箱型で、武者や民話などの絵がよく描かれました。



地元のご年配の方のお話によると、子供の頃は、鉱山祭の際に小六町や石扣町などでよく大提灯が掲げられたそうです。

小川台場跡 おがわだいばあと

県指定・史跡／指定年:平成14年／所在地:小川

台場とは、江戸末期、海防の目的で築かれた砲台で、敵を迎え撃つ大砲が据え付けられました。文化5年(1808)、佐渡奉行は殿見崎に台場を構築し、異国船の来襲に備えました。その後、嘉永3年(1850)には、異国船に対抗するため、殿見崎の台場よりもさらに大型の大砲を配置する小川台場が築かれました。小川台場は半円形で、直線延長は約45mもあります。海防のため、西の日本海に向かって崖上に構築されています。



小川台場にあった大砲は、沢根の鶴子で鋳造されたそうです。



「佐渡国海岸図」抜粋（天保13年 石井文海筆）



銅造観世音菩薩立像 どうぞうかんぜおんぼさつりゅうぞう

県指定・有形文化財／指定年:昭和59年／所在地:鹿伏の観音寺(非公開)

おぐらさねおき

この仏像はもともと、天和元年（1681）に佐渡へ流された大納言小倉実起の持仏（常に身近に置く仏像）とされています。仏像の高さは17.5cmで、全体としては顔が小さくすんなりとした容姿をしています。歴史的な美術品として貴重です。



小倉実起とは？

くぎょう

江戸時代初期の公卿で、自分の娘が第一皇子をもうけているにも関わらず、皇位継承させようとしない天皇に抗議したため、父子3人で佐渡に配流されました。佐渡では、奉行所の役人や、鉱山の山師、町人などに漢詩や歌を教えたといわれています。

黒沢金太郎窯跡 くろさわきんたろうかまあと

市指定・史跡／指定年:平成16年／所在地:相川羽田村

羽田村にある金太郎焼の窯跡です。金太郎焼は、寛政12年（1800）に黒沢金太郎により佐渡で創始された本格的な施釉陶器で、明治初期まで約70年間続きました。寛政の終わり頃には奉行所の許可を得て島内へ生活雑器を売り出し、文化元年（1804）には島外にも売りに出すほど量産していたようです。この窯跡は、昭和47年の発掘調査により、窯の構造や規模、陶器の成形技法などが明らかになりました。自然地形を利用した構造で、幅約4m・長さ約16mもの大型の登窯跡です。



相川二丁目と相川三丁目の町境付近にある小路を山手側に進むと階段があります。窯跡はその階段の途中にあります。



窯跡へ続く
階段の上り口



高野家文書 たかのけもんじょ

市指定・古文書／指定年:平成16年／所在地:相川郷土博物館内(非公開)

あかばね げんぞう

にちえい

赤穂四十七士の一人として知られる赤埴源蔵の母・日詠と弟・本間安兵衛が、日詠の実家である相川の高野家へ宛てた手紙です。

元禄15年（1702）12月14日、播磨国（兵庫県）赤穂藩の四十七士が、自害した藩主の浅野内匠頭長矩の仇として吉良上野助義央を討ち果たす「元禄赤穂事件」が起こりました。事件の翌年、源蔵は幕命により切腹させられ、その後、源蔵の母は仏門に入り「日詠」と名乗ったといえます。

この手紙は、討ち入り後の日詠と安兵衛の幸せな暮らしぶりなどを、甥の高野忠左衛門に報告するもので、当時の社会状況を知る史料として重要です。

活動報告 その1

金沢のとりくみ見学

町家や空き家の活かし方について学ぶ



金沢町家情報館で金沢のとりくみを聞く

情報館は金沢市が管理する施設で、イベントや会合など多目的に使用されています。町家の修理から売買・賃貸、町家を活用した起業・移住に関する窓口もここに 있습니다。



市内にある町家のさまざまな活用例を見学

空き家だった町家を、若い世代が、新しいアイデアで魅力的な使い方をしていた例が印象的でした。



今年10月、石川県金沢市へおもむき、歴史ある町家や空き家の活かし方について、金沢で取り組まれている皆さんのお話を伺ってきました。

金沢といえば、加賀百万石の城下町です。毎年大勢の観光客が国内外から訪れる一大観光地として、ご存知の方も多いのではないのでしょうか。佐渡から金沢を訪ねた日も、平日にも関わらず、まちなかを多くの観光客が散策し、にぎわっていました。

ですが、そんな金沢も相川と同じように、「町家の数が年々減っている」「空家が多い」という同じ課題を抱えています。

金沢は、城下町の歴史的な景観や建物を守るための条例を全国に先駆けて制定するなど、長年にわたり独自の取組みを続けています。一方で、市街地を計画的に開発し、目新しいビルが建ち並ぶ現代的なエリアも旧城下町内に設けています。

今をいきる歴史都市として、メリハリのある魅力的なまちづくりを進めている金沢で、空き家となった町家の斬新な活かし方をたくさん見学してきました。今後のあいかわらばんで、詳しくご紹介していきます！

活動報告 その2

まちなみマップ制作中

まちあるきのおともに

現在、佐渡市では、鉾山町相川の町並みを紹介する、「まちあるきマップ」を制作中です。

マップには、散策や観光を楽しむためのさまざまな情報を掲載予定です。また、相川の特徴的な風景や建物を、魅力的な版画作品やイラストを通してご紹介します。マップの完成は、本紙でもご報告します。

観光客だけでなく、佐渡にお住まいの多くの皆様に手にとって見ていただけるよう、魅力的なマップを目指します！



相川の今昔

「黒沢金太郎」

本紙2面でご紹介した金太郎焼の創始者である黒沢金太郎の生涯については、明らかに becoming いないことも多いですが、ここでは「佐渡のわざ 金太郎焼」(*)をもとに、その一端を紹介します。

金太郎の家は相川五郎左衛門町にあったといい、もとは奉行所お雇いの買石(かいいし)(鉾石を買って精錬する専門業者)でした。しかし、天明2年

(1782)、経費削減のため今でいうリストラに遭ってしまい、これにより相川中寺町にあった大超寺の門徒となりました。金太郎が窯業に生涯をかけようと考えたのは寛政6年(1794)の頃でした。他国で修行した後、寛政10年(1800)、金太郎が31歳のとき佐渡で陶器(金太郎焼)製造を始めました。その後、妻子を失った金太郎は窯業を辞めて、一度は他国に出ますが佐渡にまた戻り、それ以降は、72歳で亡くなるまで三瀬川村の寺で念仏の生活を送ったといわれています。

※『歴史紀行②佐渡』(昭和63年、田中圭一)より



金太郎焼の小便器 (相川郷土博物館蔵)



水差(奥)と土瓶(手前) (相川郷土博物館蔵)

「鍋が美味しい季節」

にゃんじーが好きな鍋は、まろやかな豆乳鍋です。

冬はコタツと鍋が欠かせません。今のお気に入りの寝床はコタツのようです。

今月のにゃんじー



第31号の予告

◆活動報告 ほか

次回1月25日
刊行予定